



学 芸

令和7年(2025年)3月/第153号

— 特集：新年祝賀会 —



- ◇ 巻頭言 理事長あいさつ……………理 事 長 森 富子… 2
中教審への諮問を読み解く……………副理事長 渡辺 裕之… 3
- ◇ 新年祝賀会挨拶……………理 事 長 森 富子… 3
- ◇ 新年祝賀会挨拶……………東京学芸大学学長 國分 充… 4
- ◇ 新年祝賀会の様子…………… 5
- ◇ 支部紹介 港支部・江東支部・目黒支部・世田谷支部・東久留米支部・あきる野支部・西東京支部・檜原支部… 9
- ◇ 研究発表会報告 中央区立阪本小学校 新宿区立愛日小学校……………12
稲城市立第六小学校 東村山市立秋津小学校……………14
- ◇ 副校長の活躍 千代田区立麴町小学校 三鷹市立第一小学校……………16
- ◇ 若手教員の活躍 中野区立桃園第二小学校 町田市立大谷小学校……………17
- ◇ 本部だより……………会計部・総務部・研修部・調査部・広報部・お知らせ…18
- ◇ 新年祝賀会～各支部等記念写真～……………20



「これからの同窓会の活性化を期待します」

理事長 森 富子

令和七年一月十九日に、一般社団法人東京学芸大学同窓会の新年祝賀会を、多くのお客様や支部の皆様をお迎えして開催することができました。今回は、大学の共通テストの日と重なってしまい、毎回参加していただいている東京学芸大学の学長様をはじめ大学関係者の皆様に参加できなくなり、申し訳なく思いました。ですが、辟雍会の皆様や全国連合小学校長会と一水会の会長様、教育委員会教育長様、顧問、参与の先生方、支部の皆様にも多数ご出席をいただきました。改めて御礼を申し上げます。短い時間でしたが、支部同士はもとより、大学の同期や、今までの同僚の方々と交流を深めることができました。皆様にとりましても楽しい会になっていましたら幸いに存じます。

恒例の写真撮影では、支部ごと以外にも、大学の同期の仲間だったり、教科ごと校種ごとがあったり、最終的には今年の干支である巳年の人の集合があったりと、これは東京学芸大学の卒業生だからこそ可能であることだとしみじみ思いました。今までも、部活やサークルごとの集合はありましたが、教科ごとや附属の教育実習校ごとの集合は、新しい交流でした。大変楽しい時間でした。私もおよそ五十年前の理科のクラス会を、もう二十年近く続けています。集まれば当時の話、今の話で盛り上がりです。同じ時代を過ごした仲間のつながりは、ずつつながることができると実感しています。それは、同じ時期に教員になりたいという志をもち、励まし合った仲間だからだと思っています。このつながりを大切にしたいです。私たちは、これからも東京学芸大学の卒業生としての自覚をもって、いつでもどこでもつながっています。

さて、三月、四月は、卒業、入学、異動の時期です。最近では定年延長などがあって、なかなか先生方や管理職の異動がわかりにくい傾向があります。全国の教員採用の一次試験の日程が、五月から七月までばらついていて、試験日がどんどん早まり、大学三年生の試験が当たり前になっていきます。となると、採用試験までの準備を二年生のうちから始めなければなりません。大学生生活を楽しむ時期が、一、二年生というより、試験が終わった四年生の夏以降になるのですが、新規採用の確定時期は、相変わらず三月の最終段階ですから、大学四年生も落ち着いて生活が送れません。何とかしてあげたいのですが、歯がゆいばかりです。大混乱の今の教員採用試験の影響は、これからの学校の管理職やリーダーの先生による若い先生方への指導に、大きな課題となってくると思います。同窓会として、一致団結してこの混乱を乗り越えたいと考えています。日々東京学芸大学の学生と接している中で、思っていることなのですが、学大生は、皆、本当に真面目で勉強家で、鍛えがいがあります。同窓会の皆様、各学校や幼稚園の教育現場でのご指導をこれからもよろしくお願いいたします。

まだ安心はできませんが、ようやくコロナ禍の影響が少なくなり、各支部の活動も活発になっていきます。一般社団法人東京学芸大学同窓会と名乗っておりますので、研修会には、東京学芸大学の同窓生でなくても参加できます。支部として、また学校ごとの先生方の研修のためでも、この同窓会の研修会をご活用いただければと思います。研修部を中心に編集している「獅子」や「子獅子」は、管理職試験のためだけではなく、それぞれの学校や支部での研修、学校や幼稚園の研究会研修会でも活用していただければ幸いです。東京学芸大学で過ごした仲間と出会う場所、たくさんの方の思い出が詰まっている東京学芸大学で行われる総会や研修会、新年祝賀会をきっかけとして、さらにつながりを深めていただきたいと思います。

どうぞ皆様、この同窓会の絆を、これからもつなげて、後輩たちを導いていただければ大変嬉しく思います。皆様のご理解とご協力を、これからもよろしくお願い申し上げます。

中教審への諮問を読み解く

副理事長 渡 辺 裕 之

昨年末、中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問があり、その中で、現行学習指導要領のコンセプトは概ね妥当との見方がある一方、理念や趣旨の浸透は道半ばであるとの指摘がありました。教育現場では、このことを踏まえ、次期学習指導要領の改定を見据えた準備作業を進めることが求められています。

諮問理由には、学ぶ意義を見出せず、主体的に学びに向かうことができない子供が散見され、自分の考えをもち、根拠に基づいて他者に明確に説明すること、自律的に学ぶ自信をもてない子供が少なからず存在することが示されています。

そこで、昨年度の「全国学力・学習状況調査（小国語）」の報告資料に目を向けると、記述問題が無回答である割合が高いこと（十七％）と、「自分の考えをもって書く学習が積みあがっていない」との現状分析が示されていました。また、記述問題で問われていることとして二点が示されているところ、一点のみ記述した解答が三十三％もあったとのこと。問題文をしっかりと言わさるを得ません。国語科に限らず、「文章を正確に理解し、自分の言葉で適切に表現する資質・能力」

を育成するという基本に立ち返った指導の強化が求められていると言えますです。

一方、中学校受験重視の風潮など社会のニーズと学校教育の役割との乖離が生じており、日々の学習評価は、未だにワークテスト等への依存から脱しきれていません。知識の集積を評価する「正解主義」や「同調圧力」に偏った傾向は積年の課題として積み上げられたままです。

今回、学習評価の改善について諮問されたことを受け、各学校では、「習得・活用・探究」の学習過程での授業改善を進める中で、目標に到達したかどうかのスコアの評価に重きを置くのではなく、形成的な評価に焦点を当てた非認知能力を重視した学びの実践を積み上げていくことに注力すべきです。そのためには、四十五分（五十分）授業に拘泥しない、柔軟な教育課程の展開が手掛かりとなります。

柔軟な教育課程の導入は、興味・関心が遮られずに、新たに生じる課題を追究しようとする子供にとっての「探究的で深い学び」の実現に向けた要諦となり、「協働的な学び」による意見交流などの時間を創出させるものです。

学校現場での気運の醸成が望まれます。

新年祝賀会挨拶

理事長 森 富 子

皆様、新年おめでとうございます。本日は、お忙しい中、一般社団法人東京学芸大学同窓会新年祝賀会に多くのお客様、顧問の皆様、そして各支部の皆様をお迎えして開催できますことをとてもありがたく心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

まず初めに、一月十七日は阪神淡路大震災から三十年でした。先日九州で大きな地震がありました。昨年の元日に生じた能登半島地震では、犠牲になられた方々、今なお避難をされている皆様はまだ大勢いらっしゃいます。心からお見舞いを申し上げます。東日本大震災の記憶も鮮明です。いつでもどこにでも地震が起きる日本の姿があります。学校は避難所になったり、防災教育の必要性が言われたりしております。学校や子どもたちを預かる同窓会の皆様には、ますますやるべきことが多い一年になります。ぜひ協力体制をつくっていききたいと思えます。

さて、東京学芸大学同窓会ではおかげさまで令和六年度は、研修部、調査部、会計部、総務部、広報部の各部署は、部長を中心に活動を行い、一般社団法人の名前のように東京学芸大学同窓会だけの活動ではない事業にも取り組んでおります。これからも、皆様のご協力をお願いいたします。

また、東京学芸大学創基百五十周年の時期に合わせて、同窓会として、桜の木を植樹いたしました。現在もしっかりと根付いております。大学に行か

れることがありましたら、本部棟前にある桜の木々と大学で建てていただいた記念プレートを探していただければと思います。また、昨年度の皆様と協力して図書館に教育支援コーナーという教員採用試験対策コーナーを設置しました。一人でも多くの学生が教員として巣立っていくようになってくれれば良いと思います。

お正月に行われる箱根駅伝のように、母校の学生や卒業生の活躍は、本当に嬉しいものです。昨年は、野球の栗山さんの後に続き、パリオリンピックで柔道の角田さん、パラリンピックの水泳の西田さんの活躍がありました。学大正門前の道路に「おめでとう」のフラッグが今も掛けられています。嬉しいことです。これからも学生や卒業生の支援を行っていききたいと思えます。大学の皆様は、本日実施されている大学共通テストの関係で、参加されておられません。学長・副学長様から、参加できず非常に残念であることと、くれぐれも皆様によるしくお伝えくださいます。本日は、短い時間ではありますが、どうぞ旧交を温めていただき、二〇二五年が素晴らしい年になりますよう、そして同窓会の活動を支えていただきますようお願いいたします。

本日ご参加してくださりました皆様のますますのご繁栄をお祈りいたします。新年の挨拶といたします。

新年祝賀会学長挨拶

国立大学法人東京学芸大学 学長 國分 充

東京学芸大学東京同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございます。東京同窓会のこの新年会は、われわれ大学の執行部にも本学出身者がいるものですから、毎年出席いたしますことを大いに楽しみにしているところなのですが、今年は、なんと共通テストと日程が重なりまして、誠に残念ながら出席ができません。当方からのご挨拶をご代読していただくことになる失礼、何卒ご容赦ください。

まず、御礼を申し上げたく存じます。同窓会の先生方には、学生の就職指導や教育実習などで大変にお世話になっております。また、昨年の本学創基百五十年に際しましては、多額のご寄附をたまわりました。それを原資ともいたしまして、学生の就職に関する資料を整え、図書館に東京同窓会からのご寄附によることを明記して学生の利用に供しております。さらに、桜の木の植樹も行うことができました。

した。本学の自慢の一つであった桜の木も倒木や枝折れが続き、やむなく伐採することが続いておりましたので、大変に助かりました。本部棟正面に東京同窓会からのご寄附によることを記した銘板を設置いたしました。若木を植えまし。お披露目の式には、森先生と青山先生とにご出席いただきました。大学にお立ち寄りの際には、ぜひともご覧ください。

本学卒業生は、教育界をはじめとして、様々な分野で活躍しているところでありますが、昨年の話題としては、何と言っても、パリ・オリンピックで、角田夏実さんが、女子柔道四十八キロ級で金メダル、団体戦で銀メダルを獲ったことでしょう。彼女はすでに世界選手権三連覇をなし遂げており、栗山英樹WBC前監督に続いて、本学卒業生二人目となる栄誉賞を授与し、また、栄誉教授を授与いたしました。

一方、大学が現在取り組んでい

る大きな事業には、「教員養成フックシップ大学」があります。これは、全国で四つの大学が選ばれ、文部科学大臣より指定を受けたもので、本学では、新たな教職科目の開発に努めるとともに、教員研修を自治体の教育委員会と連携して進めております。「有為の教育者養成」という本学の創設以来の使命に卒業生の方々とつくり上げてきた伝統を踏まえて、本腰を入れて取り組んでいるところです。

ところで、こうした席で申し上げるのも、誠に心苦しいことなのではありますが、国立大学の財政は、現在非常に厳しい状況にあります。国立大学の集まりである国立大学協会が、昨年七月に「もう限界です」という声明を出したような事態に陥っています。人事院勧告で公務員の給与は三十年ぶりの引き上げとなり、また、公立学校の教員に残業代に替えて配られている教職調整額も増額予算となりましたが、法人化後の国立大学

の教職員は公務員ではない、また附属学校は公立ではなく、私立と同じという整理となっております。そうした増額分は手当てされる見込みはございません。こうした財務状況の中で、本学は教職員の給与に手を入れざるを得ない状況となっております。誠に恐縮ですが、ご寄附などを賜わることができましたら幸いです。本学ホームページのトップ画面、上のボタンから入って頂ければ、わかるようになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

法人化後の国立大学は、同窓会組織との密接な関係づくり、そのご支援の下で事業を展開していくことが求められています。同窓会の先生方のこれまでの本学に対するご貢献に改めて感謝申し上げますとともに、引き続きのご協力、ご支援を、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

令和7年

新年祝賀会

日時 令和7年1月19日（日）12時～

場所 東京ガーデンパレス



一般社団法人 東京学芸大学同窓会

式次第

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 開会のことば | 5. 乾杯 |
| 2. 理事長あいさつ | 6. 会食・懇談 |
| 3. 来賓挨拶 | 7. 情報交換 |
| 4. 来賓紹介 | 8. 閉会のことば |

当日は115名の参加がありました。そのうち、54名が各支部からの参加者でした。
今年から参加者の人数制限をなくしたので、各支部からの参加者が増えました。各支部からの報告、支部ごとの記念撮影、旧交を温める姿があちらこちらで見られ、会場は笑顔でいっぱいになりました。 来年は、さらに拡大して従来規模にもどしたいと思います。



受付



会場入口



森 富子 理事長 あいさつ



開式のことば



来賓紹介



國分 充 学長 あいさつ（代読）

新年祝賀会の様子



乾 杯



会食と懇談



閉式のことば



若草もゆる

港区の紹介

港支部長 井田 孝
(港区立芝浦小学校)

港区は、東京都の南東部に位置し、東側はレインボーブリッジを渡ったお台場まであります。東京タワーや増上寺、海の玄関口竹芝など多くの人が集まる観光名所、新橋、汐留、虎ノ門のオフィス街、赤坂、六本木、麻布、青山、白金といった繁華街、大規模開発が進む芝浦、泉岳寺、高輪ゲートウェイエリアがあります。また、日本にある各国大使館の半数以上が港区にあり、国際色豊かな地域です。人口は約二十七万人、十二の公立幼稚園と十九の公立小学校、十の公立中学校があり、そのうち、御成門、白金の丘、赤坂、お台場の四校は、小中一貫校です。

本区は港区学校教育推進計画（令和三年度から八年度）をもとに教育課程を編成し、中でも「国際理解教育の充実」「ICTを活用した学びの充実」「基礎学力・活用力の習得」に重点をおいています。

「国際理解教育の充実」では、幼稚園にNT（ネイティブティーチャー）を派遣し、小学校では週二時間、一年生から国際科（外国語）の授業をNTとともに実施、夏季休業期間には約十日間、小学六年生と中学二年生から各四十名をオーストラリアへ派遣しています。また留学生のホームステイ受け入れや、中学校の海外修学旅行（シンガポール）、英語スピーチコンテスト、放課後英会話教室を実施し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図っています。

「ICTを活用した学びの充実」では、令和二年十月末までに区立小中学校すべての児童・生徒、教職員に一人一台タブレット端末（iPad）を配備し、令和七年度秋には、「Google for Education」や新端末を活用した複線型授業の推進を図っていきます。それと同時に教職員へのICT教育に関する研修会や児童・生徒への情報モラル教育の実施、週三日のICT支援員派遣を計画しています。令和六年度には、全国教育工学研究協議会全国大会を港区で開催し、赤坂学園、お台場学園、白金小、麻布小の四校で授業を中心にこれまでの実践を広く公開しました。

「基礎学力・活用力の習得」では、小学一年生基礎学力定着のためのGST（ゼネラルサポートティーチャー）、学力向上等を目的としたGSTや学習支援員、特別支援教育講師や校内別室指導支援員、エデュケーションアシスタントを配置し、教員の負担を軽減しています。また漢字・英語検定の活用、小学校における教科担任制、中学校進路支援講座の実施、全国学力・学習状況調査に加え、CBTなどの結果分析から授業改善も行っています。



港区役所前
増上寺と東京タワー

江東区の紹介

江東支部長 飯川 浩二
(江東区立第二亀戸小学校)

現在、江東区は人口が増加しており、令和六年五月一日現在、五十四万人を越えています。江東区の公立学校は、幼稚園十六園、小学校四十五校、中学校二十三校、義務教育学校一校、合計八十五校園です。

江東区のキャッチコピーは「スポーツと人情が熱いまち」です。江東区は深川、亀戸、大島、砂町など昔ながらの人情味あふれる町が多く、また東京オリンピック・パラリンピック2020大会において区内十会場、二十競技が開催されました。これらのレガシー事業として、小学校は競技会場となった有明アリーナのメインアリーナで「KOTO☆ボッチャフ렌ドリーマッチ」、中学校では本区出身のパラリンピアン 瀬立モニカ選手（パラカヌー）の講演会「心の教育授業」を行っています。令和七年度には、水泳場を改装した東京辰巳アイスアリーナで小学生のスケート体験が実施予定です。さらに東京デフリンピック2025大会も区内で三競技開催される予定で、こどもたちの気運も高まってきています。

また、江東区では、「KOTOこどもかがやきプラン」を策定し、本学同窓生でもある本多健一朗教育長の下、全校キーワード「みんな、かがやく！」



KOTO こども
かがやきプラン

とともに、その日のうちに行動を心掛ける「Action24」を合い言葉に、江東区の全てのこどもたちがかがやき、安心して学べる取組をすすめています。東京学芸大学同窓会江東支部では、令和六年度より歓送迎会を再開しOBも含め大勢の区内同窓生が参加し、親睦を図ることができました。また、東京都一水会（江東区五月会）と連携して、校長職候補者選考面接練習会を合同で実施しています。コロナ前に実施していた会員対象の「親睦ボーリング大会」の再開は、令和六年度は残念ながら見送りましたが、今後も少しずつコロナ前に近づけていけるよう、江東支部の活動を進めてまいります。

目黒区の紹介

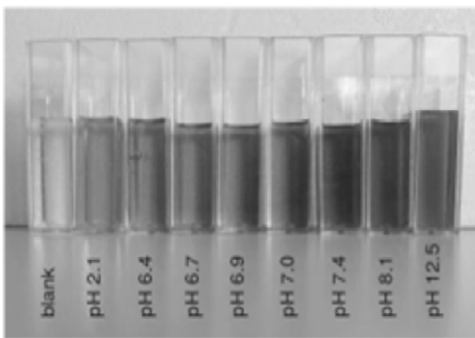
目黒支部長 日下 勝 豊

(目黒区立不動小学校)

す。

「薔薇の花が四つ咲いている。黄色い花が一つ、白が二つ、ピンクが一つ。ぽかんと花を眺めながら、人間も、本当に良いところがある、と思った。花の美しさを見つけたのは、人間だし、花を愛するのも人間だもの。」作家 太宰 治さん短編集の一節です。読点を多く用いた文体で、思春期に入る生徒を表現した一編には、心の中に真っ直ぐ入ってくる文がありました。花は人のために美しく咲いているわけではないのでしょうか。それを見た人が感じた感覚、見つけた人の感性なのではないでしょうか。子どもたちによささは、子どもたちを見る人によって見つけられ、育まれ、そして、その子どもに再び戻り、その子ども自身の光になると思います。私たちの感覚と感性が試されている、この文が透明な水のまま身体に染みこんでいきます。

夏に行われた「東京学芸大学同窓会 目黒支部 総会報告会及び懇親会」の案内文の一節です。この案内をご覧になった目黒支部OBの方々は幾度となく読み返してください、素敵な感想をいただきました。このように感じてくださる目黒支部のみなさんは、とても素敵な感性感覚をもつチームなので



研修会「塩」より

それから時がたち、秋。目黒支部の研修会が行われました。テーマは「理科・塩」。画像や実物、そして実験を加えた講演は、新規採用教諭から校長までまるで児童に戻ったかのよう、目を輝かすように、目を輝かせながら夢中になっていました。中和によるBTB溶液の緑色への変化の瞬間には、先生たちの感嘆の声が響きました。

そして、冬。今年度最後の獅子の会は、OBの方々による思い出を語る会となります。

学芸大学「獅子の会」の春はもうすぐそこまできています。

世田谷区の紹介

世田谷支部長 橋口 直 美

(世田谷区立中丸小学校)

世田谷区は、東京二十三区の南西部に位置し、人口は二十三区で一番多く約九十二万人です。二子玉川、三軒茶屋、下北沢など全国的に有名な商業地がありますが、区内の九割は閑静な住宅地です。駒澤大学、日本大学、国士館大学、日本体育大学、東京農業大学、東京都市大学、成城大学、昭和女子大学、多摩美術大学、日本女子体育大学など多くの大学が区内にあり、近隣の小中学校と連携した授業が活発に行われています。

区立小学校六十一校・中学校二十九校・幼稚園五園では、子どもたち一人一人が社会の担い手として、課題に向き合い、判断、行動し、それぞれが思い描く未来を実現するための資質・能力を育成する「キャリア・未来デザイン教育」を推進しています。各校ではこの「キャリア・未来デザイン教育」を支える二本柱、多様な他者との豊かなかわりを推進する「キャリア教育」と振り返りを起点に学びが始まる「セタがや探究的な学び」の推進に日々取り組み、子どもが主語となる学習活動を展開しています。

次年度、世田谷区は「働き方改革推進プラン」に着手します。教員の負担軽減を推進するため、配置先の学校を



「世界のみなを笑顔に 中丸ラーメンプロジェクト」自分たちで開発したラーメンを保護者・地域に販売売上金をユニセフに寄付した。

固定しない「学級経営支援教員」を四人配置します。各校を巡回し若手教員の育成、欠員が出たら担任業務の補佐に入ります。また、増加する不登校児童生徒を支援する「ほっとスクール」、中学生対象の「学びの多様化学校」を全国に先駆けて設置し、子どもの要望に寄り添った独自のカリキュラムを行います。

予測困難な時代においても、それぞれが思い描く未来を自分らしく生きるために、自らが課題に向き合い、判断して行動できる「幸せな未来をデザインし、創造するセタがやの教育」にこれからも注目してください。

東久留米市の紹介

東久留米市は、市立小学校十二校、中学校が七校あります。東久留米市は、東側には西東京市、南側には小平市、西側には東村山市・清瀬市があり、北側は埼玉県新座市に隣接しています。

東久留米市は自然豊かな町です。市内には、落合川・黒目川という二つの川が流れています。武蔵野台地の中でも湧水の多い土地として知られており、とりわけ、落合川の南沢付近の湧水は、「平成の名水百選」に東京都で唯一指定されました。周囲には豊かな林が広がり、水辺と一体となつて、様々な生物を育んでいます。子供たちは、生活科及び総合的な学習の時間で、南沢湧水や黒目川を訪れ、体験を通して学びを深めています。

東久留米市では、令和六年度から令和十年度までの五カ年を計画期間とした「東久留米市第三次教育振興基本計画」を策定しました。その教育目標の中で、「児童・生徒が人間性豊かに成長することを願うとともに、全ての市民がよりよく生きるための力を身に付け、生涯を通じて学び、支えることのできる地域社会を目指す」としています。これを受けて東久留米市教育委員会は、

東久留米支部長 古 矢 美 雪
(東久留米市立第五小学校)

育成

・ 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成

・ 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり

の三つの柱に則つて、学校教育に関わる施策を推進しています。市のこの施策を受けて、各学校では自校の児童・生徒及び地域の実態に応じた教育課程を編成して教育活動にあたっています。

「清流の街・東久留米」清らかな心をもち、爽やかに行動できる子供を育てるべく、今後も支部の活動に力を入れていきたいと考えています。



落合川の南沢湧水群

あきる野市の紹介

【概要】

あきる野市は東京都西部に位置し、人口約八万人、小学校十校、中学校六校を設置しています。一九九五年に秋川市と五日市町が合併し、あきる野市が誕生しました。令和七年九月一日に市制施行三十周年を迎えます。

明治時代に基本的人権についてふれた先駆的な憲法草案、五日市憲法は貴重な文化遺産です。

【特色】

豊かな自然が最大の魅力です。子どもたちが普段ふれている木々や草花、清らかな水をたたえる川は絶好の学びの場になっています。統廃合して使われなくなった校舎では、市内の三年生が毎年自然体験教室を実施しています。

【学校教育の重点】

「『そろえる』教育から『伸ばす』教育へ」を掲げ、個に応じた指導の充実に力を入れています。

特に不登校対策は大きな課題であり、校内別室指導やオンライン指導など多様な学びの場を確保するよう努めています。

特別支援教育も重点の一つです。中でも通常の学級の担任と特別支援教室の担任が常に情報を共有し、必要に応

あきる野支部長 芝 田 智 昭
(あきる野市立草花小学校)

じて相談機関や医療機関とも連携して、配慮を要する児童への働きかけの充実を図っています。

【教員の指導力向上に向けて】

校内研究や市教研に加え、教育委員会主催で副校長と幹部教員を対象とした研修会（るのラボ）を夏季休業期間中に実施しています。今年度は各校の強みや弱みを分析し、目指すべきゴールをイメージしながら具体的にどのような手段を講じるか協議しました。その結果を学校に持ち帰り、組織ごとに検討を加え実行に移す例もあります。

今後もこうした取組を通して指導力を高め、子どもたちの成長を支援していきます。



グループ協議の様子

西東京市の紹介

西東京支部長 稲富 泰輝
(西東京市立碧山小学校)

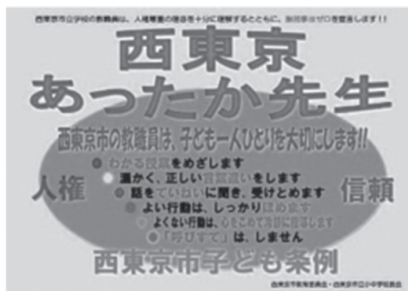
「若草もゆる武蔵野の
広きながめにはぐくまれ」

まさに、その状況が市の特徴である西東京市は武蔵野台地の中央に位置する豊かな市です。元々は田無市と保谷市の二市がありましたが、今から約二十年前に合併して発足した市であり、東京都の中では新しい市となります。

交通は、道路では青梅街道、五日市街道が東西に通っています。鉄道も、西武池袋線、西武新宿線が東西に通っています。

文化的な面では、神社・寺が多く、緑多い環境がうまく調和しています。商業施設も駅ごとに特色があり、市内でも違った雰囲気の違いが買物等がでます。電車に乗れば、新宿・池袋にもすぐに行くことが可能で、通勤・買い物等で出かける方も多いです。

教育施策では「西東京あったか先生」を掲げ、児童・生徒に寄り添った指導を全校で継続して行っています。教育委員会だけではなく、池澤市長が掲げる「子どもと真ん中」に沿った各種施策も推進され、子どもが活躍できる環境が整えられています。そのため、児童・生徒数は維持及び増加の傾向にあります。



西東京あったか先生

子どもたちの活動では、「西東京ふさと探究学習」を全校で推進しています。地域の中で各学校の特色を生かした内容になっています。小学校では市内にある「下野谷遺跡」について学ぶこと、中学校では職場体験学習で、多くの事業所に受け入れてもらっていること等があります。

地域の中で活動することに関連させ、全校がコミュニティ・スクールとなつていきます。西東京支部では、コロナ禍後の影響で集まる形が今年もとることができませんでしたが、地域と連携した活動の情報（人材・取組内容等）の共有を同窓会内で行っています。今後も、小学校十八校、中学校九校で力を合わせて、同じ大学で学んだ絆を生かして、支部活動を推進していきます。

檜原村の紹介

檜原支部長 下川 耕史
(檜原村立檜原小学校)

檜原村は、島しょ部を除く都内唯一の村です。本校にいらした方は、開口一番にみなさん揃って、山に囲まれた「豊かな自然」について言及されます。東京の西部に位置し、その大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれ、その自然は多くの動植物を育み、週末ともなれば多くの方が観光に訪れます。

八つあった村内の小学校は統廃合され、昭和五十七年に一つになりました。中学校も村内には一つだけです。学区域が広いので、子供たちはみんなバスで通学しています。遠い子は一時間近くかけて通ってきます。またバスの運行間隔が長く、本数が少ないので、学校行事などがバスの運行時間に左右されることも少なくありません。中学校は、隣接する檜原村総合グラウンドを挟んですぐ近くにあり、平成二十三年には「檜原学園」として小中一貫教育を開始しました。子供たちは地域の皆様に見守られながら、九年間の系統的な学びの中で育っています。

本村の人口は年々減少し、少子高齢化問題は深刻です。今年度の小学生の総数は五十九名で、近年六十名前後を行き来しております。しかし、近隣に比べても少ない児童数が、近い将来大きく減る見通しとなっております。村

では村外から地域おこし協力隊を募ったり、村の魅力に惹かれて移住して来る方がいたり、新規に事業を興す方がいたり、新しい風が入ってきていることも感じます。

そのような中、豊富な地域資源を元に、自分の生まれ育ってきた豊かな地域のことを理解し、それを元に将来羽ばたいて欲しいと、総合的な学習の時間を中心に「つなごう未来の檜原プロジェクト」を進め、小学校と中学校で連携して九年間を積み上げています。小学校では、特に体験活動を重視し、「体験のシャワー」と銘打って、各学年で多くの体験活動を行っています。



東京都唯一「日本の滝百選」に選ばれている払沢の滝

令和5・6年度 中央区教育委員会 研究指定校

研究主題

未来を主体的に生き抜くための情報活用能力の育成
～一人1台端末の活用とデジタルシチズンシップ教育を通して～

令和6年11月6日（水）研究発表

中央区立阪本小学校 校長 小川 優

1. はじめに

時代背景として、デジタル化が急激な発展を続けており、幼少期から ICT 機器に触れる機会が増えています。「デジタルネイティブ」と呼ばれる児童にとって、デジタル機器を効果的に活用する力は、もはや社会を生き抜くために必須の能力です。高学年の児童の間では、SNS のグループ機能でのやりとりや、動画サイトなどへの投稿が現実に行われています。また、学年によっては、支援を要する児童も多く、相手の気持ちを考えて、適切にコミュニケーションする力や、自分の考えを相手に分かるように伝える力に課題があると思われます。

そこで、研究主題を「未来を主体的に生き抜くための情報活用能力の育成～一人1台端末の活用とデジタルシチズンシップ教育を通して～」とし、デジタルシチズンシップ教育の視点での「生きる力」を明確にし、変化の大きい世の中で、たくましく未来を切り開いていく確かな資質・能力を身に付けさせたいと考えました。

2. 研究の内容

本校では、研究主題に迫るため、目指す児童像と3つの手だてを設定して取り組みました。

【目指す児童像】

- ・ 自分も他人も傷つけず、主体的に情報を正しく判断、選択し、発信（自己表現）できる児童
- ・ デジタル市民の一員として、その基本的な考え方と態度、ICT機器の活用技能を身に付けた児童

手だて1 学びを深めるための手だて

- 個（個別学習）⇒グループ（協働学習）⇒全体（一斉学習）⇒個（個別学習）の流れを意識した学習過程を計画する。

手だて2 今後の生活に生かすための手だて

- 立ち止まる⇒考える⇒相談する というオンラインで行動するときの手順を提示する。

手だて3 家庭との連携を図る手だて

- 学校での学びを日常生活で実践するために、家庭と連携する手だてを工夫する。

3. 研究の実際

研究授業を行う際は「6つの領域」に着目し、学年ごとの発達段階に応じて授業内容を組み立てました。

<発表会当日で授業公開した例>

学年	教科	単元名 (6つの)領域
1年	生活科	じぶんでできるよ メディアバランス
2年	生活科	もっとなかよし まちたんけん プライバシーとセキュリティー
3年	国語科	伝わる言葉で表そう 対人関係とコミュニケーション
4年	道徳科	よく考えて！ゲームコインは有料です ネットいじめ・オンライントラブル
5年	社会科	未来とつながる情報 ニュース メディアリテラシー
6年	国語科	おすすめのパンフレットを作ろう デジタル足あととアイデンティティー

他に、○本校が目指す児童の姿一覧（低、中、高学年）

○学年別デジタルシチズンシップ教育年間指導計画カレンダーも資料として作成しました。

4. 成果と課題

<成果>

①持続可能な指導内容の明確化

恒常的にデジタルシチズンシップ教育を行なうために、各教科の年間指導計画（指導内容）と結び付け、目指す児童の姿一覧と学年別デジタルシチズンシップ教育年間指導計画を作成できました。

②児童の変容

- ・行動の変容…相手の気持ちを考えるなど、他者に意識が向き、多くの児童が思いやりの気持ちをもてました。
- ・意識の変容…意識調査の結果が改善しました。項目例は、自分、家族、友達のプライバシーは大切だと思いますか？オンラインでも相手の気持ちを考えることができますか？オンラインで自分が発信するとき、周りにどんな影響をあたえるか、立ち止まって考えることがありますか？等。
- ・児童のICT機器の活用技能の向上

<課題>

- ① Society5.0 に対応したICT機器の運用の系統化
- ② 児童の変容のより正確な見取り方

令和5・6年度 新宿区教育課題研究校

研究主題 対話的な学びを通して、考えを深める児童の育成 ～児童の学びを支える教師力の向上を目指して～

令和6年10月25日（金）発表

新宿区立愛日小学校 校長 水野 睦子

1. 研究に取り組んだ背景

知識も理解力もある、あとは主体性があれば「鬼に金棒」「虎に翼」になれる！と学力テストの結果が出ている本校の子どもたち。そんな子どもたちが主体性を身に付けるためには、「知りたい、聞いてみたい」という友達との対話が一番なのではないか。そして、子どもたちが話したいと思う場面を創り出すために、私たち教師は何をすればよいのか、そのような考えから本校の研究がスタートした。
（本校研究主任 本村 文香 主任教諭より）

2. 研究の内容

対話を実現するための手立てとして、3つの分科会で授業改善に取り組んだ。

- ① 発問・板書分科会—考えを引き出す発問・板書
- ② 話し合い分科会—必然性のある話し合いづくり
- ③ 課題づくり分科会—思考のすれを生かした課題づくり

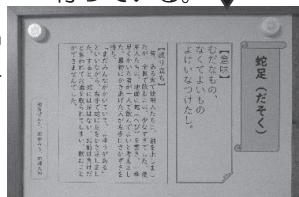
授業力の指針として、東京都教育委員会が示している【教師が身に付けたい、授業力向上の6要素】を基に、特に「指導技術」「教材研究」を中心に研究を進めた。

3. 取り組みの特色の1つである「トリオ」

「話し合い」では、どの子どもたちも話しやすいように全体、グループ、ペア等、形を変えている。その中心となるのが3人グループ『トリオ』である。目的を明確にしてトリオ学習にすることで、自分事として話し合う必然性が出てくる。また、そこから多様な考えが出ることで、話し合いが深まる場面がどの学年でも見ることができた。

4. 朝学習の取り組み

本校では、児童の語彙を増やすことや文章表現を豊かにするために年間を通して、毎週木曜日、8:20～8:35『朝学習の時間』と設定し、「毎月の詩の学習」「言葉集め」「新聞記事の感想・要約」を行っている。



【言葉集め】
3年「故事成語」
子どもたちが4コマ漫画風に、写真で故事成語の使い方を説明した作品。



5. 研究を通して

通常の学級16学級、若竹学級（特別支援学級）3学級、全21学級が授業を公開した。授業後は、講師を招かず、各学年と若竹学級の7分科会に分かれて協議会をもった。本校教員と来校された先生方と一緒に、授業について率直に意見交換することができた。また、全学級を公開にしたことで、教員一人一人の国語の授業力が大きく伸びた。それを教員自身、特に若手教員が実感できたことが、本研究の何よりもの成果と考える。

6. ご案内 学校 HP から学習指導案をダウンロードできます。

ユーザーID：aijitsu2024
パスワード：1025



研究の成果 「教師が変われば子供も変わる」

教師 → 日常的に教材研究や授業の進め方についての話をするようになり、互いの授業を見合い改善策を出し合って、本気で学ぶようになった。

児童 → 「友達の話をもっと聞きたい」「友達の話を聞いて考えが変わった」と考えるようになり、自分の考えをもって主体的に友達と話し合うことができるようになってきた。



令和5年度・6年度 稲城市教育委員会教育研究奨励校

令和6年11月8日 発表

「誰もが夢中になって取り組む体育学習」～運動の面白さを実感できる授業を目指して～

稲城市立稲城第六小学校 校長 加藤 正 人

1 研究主題の設定と目指すところ

「体育の授業は好き」という児童が多い反面、一方で休み時間には屋外に出て運動遊びをする児童が多いとは言えないという当時の現状がありました。ここから、「時間を忘れるほど楽しい」「苦しいけれど面白い」のような思いで、子供たちが夢中になって運動に取り組むことができるような体育の授業にしたいと考えました。そうすることによって、すすんで運動しようとする児童の育成、すなわち生涯にわたって肯定的にスポーツのかかわることができるような人になってほしいと考えて主題を設定して、研究活動をスタートさせました。

2 研究の内容

主題に迫るために、基礎研究・調査研究、そして授業実践を通した研究をしてまいりました。

(1) 運動の「楽しさ」と「面白さ」

本研究においては、次のように定義しました。

- 「楽しさ」・・・ 何かを体験するとき感じる心地よさや満足感
- 「面白さ」・・・ 何かに興味をもったときや新しいことを学んだ時に感じる喜びや興奮

体育学習においては「楽しさ」を十分に味わうことができ「面白さ」にも出会えるのではないかと考えました。

(2) 「夢中になる」とは

活動に没入(フロー)している具体的な児童の様子として捉えました。

- 学習の準備や片付けを積極的に行う
- 学習のサイクル(考え→取り組み→振り返り→修正する)を回している
- 全力を尽くそうとしたり、仲間と協力しようとしていたりする等を想定しました。

(3) 授業づくりの構想

体育科が目指すもの「すべての人にとって、それぞれが豊かなスポーツライフを築くことができるようにする」に向かって 小学校段階では

- 運動嫌いにしないこと
- そのためには「個に応じた学習」を展開すること
- だから「児童一人一人に学びのある授業」にすること

を念頭に授業を構想してきました。

① 運動との出会わせ方の工夫

- ・ 楽しさがある学習材
- ↳ 活動そのものが楽しい
- 「できるかどうか」を楽しめる

② 学習過程における工夫

- ・ 自分の課題解決に向かえる学習活動
- ・ マイペースでまた自己決定ができる学習形態
- ・ 必要に応じて活用できる学習資料
- ・ 学びを適切に振り返る学習評価

3 研究発表会

2校時から全13学級が授業公開を行いました。好天にも恵まれ、子供たちもののびのびと学習活動に取り組みました。

研究発表後の講演会では 同窓生でもある 日本体育大学教授の白旗和也先生から、御自身の豊富な研究実績等をもとに

- 能力を引き出す指導の重要性
- 運動への「愛好的なかかわり」を引き出す、出会わせ方や、肯定的な評価が大切であること等、本校の研究の成果を価値付けてくださるお話をいただきました。



稲城第六小学校 HP 「校内研究」へ →

令和5・6年度 東村山市教育委員会研究奨励校
研究主題

「児童主体の学びの実現」

～算数科の授業づくりを通して～

令和6年11月22日発表

東村山市立秋津小学校 校長 佐藤 和枝

はじめに

本研究は、「算数科において根拠をもって表現する力を育てたい。」という願いから始まりました。そして、「教師がどのように教えるかではなく、児童がどのように学ぶか」という視点が重要であると考え、この研究主題に行きつきました。研究を進めるにあたって必要なことは、教師の「児童に任せる勇気」でした。

児童主体の学びを引き出すポイント

(1)「問い」や「目的」が児童の中に生まれるような導入や発問の工夫

・「これを考えたい。」「これができるようになりたい。」と、児童が自ら取り組めるようにすることを目指して工夫しました。

(2)「学びのコントローラー」が児童にある自己決定場面の設定

・次の3点を児童自身で決められるようにしました。

- ①課題解決方法(～を使って ～の考え方で)
- ②学び方(ヒントをもらう 友達と相談するなど)
- ③「学習の目標」「どの問題から取り組むか」「どのように取り組むか」

(3)児童が自己調整を積み重ねられるような振り返り場面の設定

・めあてが達成できたかどうかや自分の学び方はどうだったかを振り返り、次に試してみたいことや頑張りたいことなどを見付けることができるように、次の4つの観点を作成しました。

- ☐わかったこと だいじなこと
- ☐がんばったこと
- ☐もだちのこと
- ☐もったいたいこと

教師の学び・児童の学び

- ・「教師が教える場面」と「児童が決める場面」を整理して授業を計画する必要がある。
- ・児童自身で学習を選択できる環境を整えた結果、学習意欲が向上した。
- ・児童が既習事項を活用するためには、学習を振り返る時間の充実が大切である。



- ・算数の授業で考えを伝え合うことが楽しくなった。
- ・今日も「学びのコントローラー」をつかって勉強したい。
- ・もっと振り返りをたくさん書きたい。
- ・めあてやまとめを自分たちでつくりたい。



おわりに

本校には若手教員も多くありますが、中堅教員が率先して研究授業に取り組み、全員で授業改善・授業力向上に取り組むことができました。

本研究では、「児童主体とはどのようなことか」という理論を東京学芸大学 准教授 大村 龍太郎 先生に、算数科の学習についてを文京区立明化小学校長 熊倉 勝 先生にご指導いただきました。今後は、本研究の成果を他教科にも生かしてまいります。

立場が人を育てる

千代田区立麹町小学校 副校長 三 浦 美 樹

昨年度の九月に本校に着任し、副校長としての教員生活が一年と半年過ぎようとしています。着任したての頃、一番驚いたことは、次から次へと押し寄せてくる情報の多さです。交換便を始めとした郵便物、電話、メール、先生方からの報告などです。それぞれに對して、自分自身がスピード感をもって対応しなければならぬことに驚きました。

その時に、思い出したのが、私が初任者研修で、担当の指導主事の先生から言われた「仕事の内容に對して、どのくらい時間がかかるか分かるようになったら一人前」という言葉です。その言葉を聞いた時、学生時代のゆつたりとした時間の流れと、学校現場の一日の流れの速さに戸惑っていた自身に大きな衝撃を与えたことを今でもはっきりと覚えています。

あれから何十年も経ちましたが、この言葉に對してまだまだ一人前になれずにいる自分がいます。しかし、例えば一人前でなくても毎日の仕事は次から次へとやってきます。その一つ一つの職務を今は、副校長として誠実に行うしかありません。その事に気付くこと

ができたのは、校長先生からの「立場が人を育てる」という言葉でした。その言葉のお陰で不安な気持ちでいっぱいだった自分自身を奮い立たせる事ができたのです。

学校全体を管理職としての立場で見ると、物事に対して今までと違った見方ができるようになりました。そして、今まで自分がどれだけたたくさんの方々に育てていただいたのかということにも改めて気付くことができました。また、副校長になって、学校運営には、チームワークが欠かせないことや、学校が行政、関係諸機関、地域、保護者との連携の中で成り立っているということを実感する機会が多くありました。支えてくださっている方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

「子どもたちのために」と日々職務にあたっている先生方にとって、一人一台端末の活用や教科担任制、さらに働き方改革等、課題は山積みです。その一つ一つの課題に對して、私も副校長として自分自身が何をすべきかを考え、これからも精一杯職務に取り組んでいきます。

真の「チーム学校」を目指して

三鷹市立第一小学校 副校長 坂 本 尚 毅

現任校で一年、副校長としては四年間の経験となります。この間、三人の校長先生にご指導をいただき、学校経営について様々な考え方を学んだり、時には困難な事案に對して対応したりしてまいりました。校長先生方から学んだことは、自身が今後同じ立場になった際に、大切にしていきたいことばかりでした。

一人の校長先生は、勤務校の児童の良さや課題、保護者のかかえる状況、地域の関係者のことなど、こと細かに把握されており、文字通りの「個別最適化」対応に結び付いていました。

一人の校長先生は、解決困難と思われる事案に對して、いつでもご自身が先頭に立ち、私たちを鼓舞しながら児童にとって何が最善策なのかを考えて対応に当たっていました。

一人の校長先生は、「相手の心の中にあること」を常に考えておられました。保護者等からの厳しいご意見や要望に對しても、そう考えるに至った背景や事情をくみ取り、常に丁寧な対応を心掛けていらっしゃいました。

副校長業務は、とすると次々と出てくる細かな対応に追われてしまい、

学校経営に必要な高い視座から物事を考えることを忘れてしまうこともありま。す。このようなときに、これまでご指導をいただいていたことを思い出し、業務にあたっています。

現在、個人的な課題意識として「どのようにすると、学校の問題に對して教職員が自走し、解決を図れる組織になるのか」ということを考えています。ある専門誌では、「今年度内に教員の欠員が生じる学校が三割程度になる」とが見込まれる」という記事が掲載されていました。

このような事態においては、管理職の適切な取組目標設定の下、主幹教諭やミドル層が児童のための最適解を考え、動けることが大切だと考えます。

そのために、個々の教職員の良さと改善点を適切に見極め、日々の業務の中の小さなことでも教職員の取組を価値付け、組織の中での承認感が高まるように心がけています。特に、授業観察後には一人一人の教員にA4一枚の授業観察記録を作成し、短時間でフィードバックを行っています。

本当の意味での「チーム学校」をつくるのが、今の私の目標です。

全員で子供の成長を支える

中野区立桃園第二小学校 安田 純平

私は、東京学芸大学初等教育教員養成課程理科選修で四年間学び、教員になりました。現在は中野区立桃園第二小学校で五年生の担任をしています。私は、教員の仕事に就いて二年目の頃に、印象に残った出来事がありました。

当時の私は運動会の係で、応援団の担当でした。もう一人の先生と分かれ、赤組になりました。五・六年生とほとんど関わりがない中で、どのように指導をしていこうかと不安に感じていました。応援団長と話しながら、子供たちがやる気になってくれるような励ましの言葉を心掛け、忙しくも楽しい練習の日々でした。無事に本番を迎え、応援団のみんなも一生懸命に頑張リ、見事に赤組が勝利しました。

運動会の片付けを終えた後、応援団長の子の担任の先生から「応援団のおかげであの子がみるみる変わっていききました。本当に先生のおかげです。ありがとうございます。」と涙ながらにお礼を言われました。その時に、この仕事をしてきて良かったなと心から思いました。運動会が終わった後も応援団長の子とはよく話すようになり、元気な姿で卒業していきました。それ

以後も何度か応援団の担当をして、どの子も大きく成長していく様子を見ることができました。

この経験を通して、教職員全員が協力して子供を支える大切さを実感することができました。行事の係や委員会活動やクラブ活動など、子供たちは担任以外と関わる機会がたくさんあります。その中で、子供の成長に繋がります。きっかけはいろいろな所にあると思います。学校全体で「子供のために」の意識をもちながら行事の運営ができたことが良い経験になったと思っています。

今の私は、子供のやる気が続くような励ましや、子供たちがやる気になるような声掛けを意識した学級指導に励んでいます。大変なこともあります。子供の成長に立ち合うことができます。貴重な仕事だと思っています。また、大学の頃の学習を生かし、理科の教材研究にも力を入れています。子供たちが興味を引くような導入や見通しをもった実験ができるような授業展開の方法を模索しながら、よりよい理科授業を目指しています。

困難を子供と共に乗り越える喜び

町田市立南大谷小学校 岡崎 暁

教員生活一年目の終わりが近づいてきました。およそ一年前、初めて担任をもつことになった子供との出会いは鮮明に覚えています。四月から始まった教員生活は困難の連続でした。

私は大学の実習や講義で学んできた教育技術を基盤に指導をしようと、日々励んでいました。そんな中、個別指導の壁に私はぶつかります。全体指導で「わかった!」と言う子供がいると、つい嬉しくなってしまう。授業を進めてしまう私。取り残される子供がいることに気付いたのは、しばらく経ってからでした。

それからは、それぞれの特性をつかむことにしました。何に困っているのか、どうすれば取り組みやすくなるのか、丁寧に対話すること、それぞれに適した方法を模索していききました。試行錯誤を繰り返して、子供が目標を達成できたときは、一緒に大喜びしました。

初めて担当した学習発表会では、子供の思いを実現させることに多くの苦労がありました。発表を計画する中で生まれる現実的な制約をどのように調整するかが難題でした。まず子供には

自由にアイデアを出してもらい、やりたいことを話し合いました。しかし、時間や役割分担、スペースの問題等が浮き彫りになり、全ての希望に応えることは難しいことに気付きます。思い通りにいかず、やる気を喪失してしまう子供も現れる中で、私は先生方に相談をすることにしました。助言をもとに発表の骨組みをつくり、子供とともに調整する時間を設けました。その中で感じたことは、子供に役割を与えることの大切さです。納得する形で発表内容が決まり、自分の役割をもった時、子供はキラキラと目を輝かせて前向きに取り組むのだと実感しました。発表会当日、子供は自信をもって発表し、その姿を見て私は大きな感動を覚えました。この経験を通して、教員としての大切な役割を学びました。

二年目は、今年度の経験を生かした挑戦をしていきたいと考えています。大学で学んだことはもちろん、子供のためになることを最優先に、これからも精進していきたいと思います。

本部だより

会費納入に感謝申し上げます

会計部長 關 口 泰 正

日頃より、会計部の活動に御協力いただき、ありがとうございます。

今年度も、各支部において集まる機会が増え、ますます盛り上がりつつあるという、うれしいお話を伺っております。

各支部長先生をはじめ、会員の皆様には、会費納入に御協力をいただき、誠にありがとうございます。

それぞれの支部で、声をかけていただき、工夫して会費を徴収していただいていることに感謝申し上げます。

今年度も、一月三十一日現在で、二千三百三名の正会員の皆様に会費を納入していただきました。また、六百十四名の管理職の皆様には、賛助会費を納入していただきました。

今年度も、年度末の決算を迎えます。皆様から納入していただいた会費等の収支をしっかりとまとめ、決算報告をいたします。

皆様の会費が充実した研修会や講演会、会員同士の親睦を深める機会などの活動につながります。来年度も、皆様の御協力をお願いいたします。

会計部では、今後とも、同窓会の予算管理を徹底させ、会計面から同窓会の活動を支えてまいります。

新年祝賀会のこれからの形

総務部長 青山直志

まさかの事態でした。令和七年一月十九日(日)は大学入学共通テストの二日目。学長の國分充先生以下、東京学芸大学の先生方がお一人も出席いただけないことが判明したのは昨年十一月のこと。例年、共通テストは新年祝賀会の一週後でしたが、二〇二五年は一週早くなるということ了我々本部は掴んでいませんでした。顧問の先生方からは「総務部は何をやつとるんだ」とお叱りの言葉をいただきました。ただ、一年前の段階では分からなかった急な変更であるということで、笑顔でお許しをいただきました。

昨年同様、参加者数の予備調査を行い、キャパオーバーにはなりそうにないことを確認した後、本申込と会費振込をしていただきました。結果的には百二十六名のご出席で「令和七年新年祝賀会」はスタートしました。

ご欠席の國分充先生からいただいてのご祝辞を貝原俊明副理事長が代読しましたが、その中には、昨年春に本会から小金井キャンパスに寄贈した桜の木に対する感謝のお言葉もありました。そして会も中盤に入り、もはや恒例となりつつある写真撮影会が始まりました。各支部は勿論、同じ学科や卒業年とともに、今年は附属学校の教育実習でお世話になった指導教官の先生を囲んで、という微笑ましい撮影風景もありました。

来年は共通テストと重ならない日程で、二百名の参加者を目標したいと考えています。

「獅子第46集」完成

研修部長 清水 淳

各支部に配本をお願いしている学校経営研修テキスト「獅子第46集」が完成いたしました。毎年、研修部が内容を修正し、国や東京都の施策、教育課題、そして法律にも触れ、できるだけ最新の情報を掲載するようにしています。校長・副校長等の教育管理職選考を受験される先生方の対応策をはじめ、主任教諭を目指す若手の先生のための対応策なども掲載しております。ゆえに学校運営を支える校長先生方から若い先生方まで、幅広く活用できるものとなっております。

サイズもA4サイズで読みやすく、書庫にしまっても見付けやすい大きさになっております。内容も毎年修正を重ねて充実させ、好評を得ております。より多くの同窓の先生方の修養に役立てていただきたいと、同窓会本部の支持もあり価格は昨年度同様です。三月二十四日を目途に各支部へお届けいたします。

次年度の研修会予定です。

【論文研修会】 九時十分から

①五月十一日(日)②六月一日(日)

受付 八時五十分～九時

【面接研修会】

・九月七日(日)九時十分から

受付 八時五十分～九時

【論文研修会(主任教諭選考)】

・令和八年二月七日(土)十五時から

受付 八時五十分～九時

*会場は、すべて新宿区立市谷小学校
※各研修の申込みは、獅子の表紙裏の「申込みQRコード」から研修の前々日までお願いいたします。

次年度の管理職等名簿の準備について

調査部長 藤山由仁

皆様のご協力のおかげをもちまして、昨年十月に「令和六年度管理職等名簿」が完成し、学芸大学同窓会ホームページ上にPDFで掲載することができました。いつも調査部に大きなご協力をくださり、心より感謝申し上げます。

今後の作業ですが、三月に、現在の各支部長の皆様に、来年度の新支部長と名簿担当の先生が誰になるかということの調査依頼を行う予定です。 구글フォームにて調査をする予定ですので、必ず返送していただきますようお願い申し上げます。

そして四月から令和七年度の「管理職等名簿」の作成、修正を進めていきたいと考えております。こちらから令和六年度の名簿を送付しますのでそれを訂正していただければと思います。新支部長への引き継ぎも含めて、どうぞよろしくお願いいたします。

毎年支部長の返信が無い、名簿の返信が無いなどの支部がございますので、円滑な名簿作成に向けて御協力をお願いいたします。

また、誠に申し上げにくいのですが、昭和二十八年以前卒業の皆様は、ご高齢で物故者やご逝去、ご不明の方もおられます。「その他」の欄にご逝去の年を記載し、次の年にはお名前を名簿から割愛していく作業が必要となります。

終身会員の登録の仕方は、希望者が支部長から申込書を受け取り、ご自分で手続きをする流れになります。終身会員を希望される方は所属支部に連絡を取りご相談ください。

読みたくなる「学藝」を目指して

広報部長 加納 一 好

広報部は年三回の「学藝」の発行とホームページの運営を行っています。

今号は、一月十九日（日）に開催された新年祝賀会を特集しました。短い時間でしたが、各支部などの写真撮影も楽しく、笑顔の祝賀会になりました。その祝賀会の雰囲気は紙面から少しでも感じていただければ幸いです。

その他、支部紹介、研究発表会報告、副校長と若手の活躍などを載せました。作成にあたっては各支部から多大なるご協力をいただきました。深く感謝いたします。研究発表会もコロナ禍以前と同様に開催できるようにになりました。

ホームページに記事や資料を即時にアップできるようにしました。今後は研究発表会の案内を充実させていきたいと思っています。会員の皆様の学校の研究発表会の案内ができましたら、ぜひ広報部までご連絡ください。案内をホームページに掲載いたします。

また、個人情報も含まれることから、今後は支部長会と総会の資料にパスワードを付けます。パスワードは支部長宛のメールでお知らせしています。分からない場合は支部長にお問い合わせください。

【お知らせ】

副理事長の担当支部は次の通りです。支部総会等の担当になります。

◎副理事長の担当支部

稲葉孝之副理事長

中野、杉並、練馬、昭島、町田、狛江、多摩、羽村、あきる野、奥多摩、学芸大（十一地区）

渡辺裕之副理事長

千代田、中央、大田、渋谷、足立、葛飾、府中、日野、東久留米、西東京、瑞穂、都庁（十二地区）

茅原直樹副理事長

豊島、北、荒川、江戸川、青梅、小平、東村山、国分寺、福生、清瀬、高等学校（十一地区）

貝原俊明副理事長

文京、台東、墨田、江東、品川、八王子、立川、三鷹、調布、国立、檜原、特別支援学校（十二地区）

小川 優副理事長

港、新宿、目黒、世田谷、板橋、武蔵野、小金井、東大和、武蔵村山、稲城、日の出、島嶼（十二地区）

〈令和七年度

同窓会総会について〉

・日時

令和七年六月八日（日）

総会

午後零時～

講演会 午後二時十五分～

・場所

東京学芸大学講義棟S410

参加人数等については後日、お知らせいたします。

〈送付停止について〉

「学藝」一五三号から昭和二十三年以前卒業の方への送付を原則停止させていただきます。昭和二十三年以前卒業の方で送付の継続を希望される方は、担当へお知らせください。

それ以外でも送付が不要な場合は担当へお知らせください。

連絡先

広報部終身会員担当

荻久保 剛正

板橋区立板橋第一小学校

電話 〇三(三九六)〇一〇〇

FAX 〇三(五三七五)五七六〇

◇ 編集後記 ◇

「学藝一五三号」の作成には支部紹介に八支部、研究発表会報告に四支部、副校長と若手の活躍に四支部と、多くの支部の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。

コロナ禍が過ぎ、教育活動が再開してきた各区市の取組、特色ある研究発表、多様な中にも喜びを見出す副校長や希望をもって成長しようとする若手教員の心意気など、編集してて学ぶことの多い内容ばかりでした。

「学藝」を充実させていくためには会員皆様のご支援・協力が不可欠です。今後ともよろしく願いいたします。

記事にできる、或いはしたい情報がありましたら、ぜひお知らせください。（広報部）

学藝 第一五三号

発行 令和七年三月

東京学芸大学同窓会理事長

森 富子

東京都文京区小石川四の一の二二
電話〇三(三八二)七二五一(代)

URL <http://www.o-gakugei.org>

印刷 日本ハイコム株式会社

東京都文京区関口一の十九の二
電話〇三(三三五)四四四一

新年祝賀会写真集



来賓の皆様



練馬支部



北支部



杉並支部



保健体育科の皆様



江東支部



港関係者



大田支部